

自分の思いや考えをもち、生き生きと伝え合う児童・生徒の育成 ～TV 会議システムの効果的な活用を通して～

十島村立中之島小・中学校

1 研究のねらい

小中併設、極小規模、少人数である本校においては、その利点を生かし、授業や学校行事、集会活動等、様々な教育活動において、個に応じた指導を実践している。しかし一方で、同年代の仲間と多様な意見交換や話し合いの深化を図る学習活動を実践することが困難な面がある。そのため、「話す・聞く・書く」などの表現力の向上が本校の大きな課題となっている。

そこで、TV会議システムを効果的に活用した合同授業を行うことで、授業づくりや指導法についての研究・実践による授業力の向上を図り、児童・生徒の表現力の向上をねらいとし研究を進めることにした。

2 研究の概要

課題解決に向けて、まずTV会議システム活用推進校として、TV会議システムの効果的な活用を探るため、小学校において十島村7校を各学年の人数のバランスを考慮し、グループに分けて、合同授業を計画・実施しながら、授業づくりや指導法についての研究・実践に取り組んできた。さらに、表現力の向上を図るために、小学校1年から中学校3年までの9年間を見通した系統的な指導ができるように、話す・聞く・書く力をどの学年で定着させるかを一覧にした「身につけさせたい表現力」を作成し授業等で活用した。

3 研究の内容

- (1) TV会議システムの効果的な運用等に関する研修
- (2) TV会議システムによる合同授業の在り方についての研究
- (3) TV会議システムによる授業以外の言語活動の充実
- (4) 授業における言語活動の工夫

4 研究の実際

- (1) TV会議システムの効果的な運用等に関する研修

4月に校内で、TV会議システムの効果的な運用について研修を行い、セッティングの仕方や授業構成について話し合った。また、8月には十島村小・中学校TV会議合同研修会を実施した。

これまでに、各学校と連絡、日時や進程の調整を行うことに課題が多く残されていた。そこで、推進校である本校から、8月の研修会で、まず小学校において2～3校のグループに分け、授業前の打ち合わせや合同授業等を行うように提案した。その他、1学期の合同授業(小・中)の反省点を集約し、成果や課題について話し合った。

- (2) TV会議システムによる合同授業の在り方についての研究

ア 中学生 学活

将来に対する不安や悩みを抱えたときに、少人数であるためにそれらを同級生と語り合うことが本校だけでは困難になることが多い。そこで、他島の受験生と日頃の家庭学習の仕方や将来の夢などを語り合うことで、お互いに刺激し合い、受験に向けた学習意欲を高めることを目的に実施した。



第1回 TV 会議合同研修会

イ 小学5年生 道徳

少人数授業における課題の一つとして、多様な意見、考え方にふれることや、グループ活動で討議したりすることが困難であることがあげられる。そこで、他島の児童と道徳の合同授業を実施した。村内連合の行事等で交流を深めることができていたため、活発な意見交換や討議をすることができた。また実施にあたっては、児童の表情や黒板の写し方、書画カメラの活用の仕方などの事前研修を行った。



道徳合同授業

ウ 中学生 英語

これまで本校では、年に3回ALTによる英語の授業を実施していた。他校の生徒と比べてネイティブな英語にふれる機会が少ないことが、村内の英語部会でも毎回課題としてあげられていた。そこで、村教委の協力のもとTV会議システムを活用した英語の授業（役場にALTを招く）を実施した。授業では、生徒の英語を話す・聞く力を高めるために、島の紹介や英文を暗唱しそれらを英語でスピーチする学習や、ALTの話をメモしながら聞きそれに対して質問する学習等を行った。



英語合同授業

(3) TV会議システムによる授業以外の言語活動の充実

土曜授業の朝の時間を活用して、村内7島の小・中学校が当番制で各島の紹介や学校や地域の行事等を、クイズ形式や寸劇等で紹介し交流する集会を実施した。本校は、4～7月の司会校としてトカラ集会の進行を行うとともに、11月は担当校として本島に生息する生物の生態や特徴をクイズ形式で発表した。



トカラ集会

(4) 授業における言語活動の工夫

授業における言語活動の工夫として、小学校1年から中学校3年までの9年間を見通した系統的な指導ができるように、話す・聞く・書く力をどの学年で定着させるかを一覧にした「身につけさせたい表現力」を作成し授業等で活用した。また研究授業の際は、校内で作成した「身につけさせたい表現力」のどの力を伸ばす学習活動なのかを指導案に明記し、授業研究では、その点を中心に成果と課題を出し合い、すべての授業づくりに生かせるようにするとともに、全職員で改善策を共有し授業力の向上に努めた。

5 研究のまとめ

(1) 成果

ア 校内研修や村内の各学校との合同研修を通して、TV会議システムの効果的な運用を図ることができ、TV会議システムを活用した授業づくりや指導法の話合い、合同授業等を昨年度以上に積極的に進めることができた。

イ TV会議システムを活用した合同授業を積極的に行うことで、児童・生徒が意欲的に授業に取り組むとともに、多様な考えにふれ普段できない意見交換をすることができた。また、「身につけさせたい表現力」を作成し授業等で活用することで、児童・生徒の言語活動が充実したものになり、表現力を高めることにもつながった。

(2) 課題

発表や意見交換だけではなく、討議や練り合いを授業の山場とするTV会議システムを活用した授業づくりの研究をさらに進める必要がある。

6 今後の取組

TV会議システムの効果的な活用について、授業方法や技術のみを改善するのではなく、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点で授業改善を行い、自分の思いや考えをもち、生き生きと伝え合う児童・生徒の育成を目指したい。